

出雲市中小企業景況調査結果（平田商工会議所管内）

今 期（2013年10－12月）の 概 要

調査期間 平成26年1月6日（月）～1月15日（水）

対象企業 調査対象企業数30社 回答率30社（回答率100%）
内訳：建設業4社、製造業7社、卸売業2社、小売業9社、サービス業8社

概 況

○全業種の今期業況DIをみると、前期比で3.7（前期調査△15.4）とマイナス幅が改善しました。前年同期比では△3.7（前期調査△8.3）とマイナス幅がわずかに縮小しています。来期業況見通しDIでも、今期比で△22.2（前期調査△25.0）とほぼ横ばいで推移する見込みです。

○全業種の今期売上DIは、前期比で10.0（前期調査△22.2）と、建設業25.0、卸売業100.0、サービス業37.5と3業種がプラスを示したことから全体で大きく改善しました。前年同期比では建設業25.0、卸売業100.0と上向いた一方、製造業△71.4、小売業△33.3と悪化したことにより、△10.0（前期調査△19.2）と大幅な改善にはつながりませんでした。来期売上見通しDIも、今期比で△23.3（前期調査△23.1）と横ばいで推移するものと見込まれています。

業種別景況調査の主要DI

1、建設業

- ・今期業況DIが、前期比で25.0（前期調査△25.0）と大きく改善しました。前年同期比でも50.0（前期調査33.3）とやや上向いています。今期売上DIも前期比で25.0（前期調査△25.0）と改善傾向にあり、前年同期比でも25.0（前期調査△33.3）と高い水準を維持しています。

- ・来期業況見通し DI は今期比で25.0（前期調査△33.3）と幾分改善の動きが予想され、売上見通し DI も△25.0（前期調査△66.7）と、大きく改善する見通しとなっています。「消費税増税前の駆け込み需要で忙しいが利益がでていない。4月以降の受注減少が懸念される。」という声がありました。

2、製造業

- ・今期業況 DI が、前期比△14.3（前期調査△33.3）、前年同期比では△14.3（前期調査△33.3）とマイナス幅がやや改善しました。売上 DI は前期比△28.6（前期調査△50.0）と回復の動きを見せています。前年同期比では△71.4（前期調査△16.7）と、マイナス幅が大幅に拡大、悪化となりました。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で0.0（前期調査△16.7）と若干の改善が見込まれており、売上見通し DI でも今期比で28.6（前期調査0.0）と上向き見通しです。

3、卸売業

- ・今期業況 DI が、前期比で100.0（前期調査100.0）と同水準で推移。前年同期比でも100.0（前期調査100.0）と引き続き好調な動きを示しました。売上 DI では前期比で100.0（前回調査100.0）、前年同期比でも100.0（前期調査100.0）と、いずれも4期連続で現状を堅持しています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比では0.0（前期調査0.0）と、横ばいで推移すると予測されています。売上見通し DI でも今期比で0.0（前期調査0.0）で引き続き現状を維持すると見込んでいます。

4、小売業

- ・今期業況 DI が、前期比で△22.2（前期調査△22.2）と横ばいで推移しています。前年同期比にいたっては△55.6（前期調査△22.2）と、マイナス幅が大きく拡大しました。売上 DI は、前期比で△11.1（前期調査0.0）やや後退しており、前年同期比で△33.3（前期調査△44.4）と、こちらはわずかに改善しています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で△44.4（前期調査△33.3）とやや後退する見方をしていますが、売上見通し DI は△33.3（前期調査△44.4）とわずかに上向き見方がなされています。

5、サービス業

- ・ 今期業況 DI が、前期比で 20.0 (前期調査△20.0)、前年同期比でも 20.0 (前期調査△25.0) と、再び大きく改善しています。売上 DI は前期比で 37.5 (前期調査△50.0)、前年同期比も 25.0 (前期調査△16.7) と、ともに一気にプラスへ急上昇するなど好調でした。引き続き出雲大社の遷宮の効果があるようです。
- ・ 来期業況見通し DI は、今期比で△60.0 (前期調査△25.0)、来期売上見通し DI でも今期比△62.5 (前期調査 0.0) となるなど、今期の反動を懸念し大幅な悪化予測となっています。

設備投資動向

1、今期設備投資

- | | |
|-------|---|
| 全業種 | 設備投資を実施した事業所の割合は 48.5% (前期調査 25.9%) で、「機械・備品」への投資が一番多くなっています。 |
| 建設業 | 実施割合が 50.0% で、「機械・備品」「車両運搬具」が同率で並んでいます。 |
| 製造業 | 実施割合が 50.0% で、「車両運搬具」への投資が一番多くなっています。 |
| 卸売業 | 実施割合は 66.7% となっています。 |
| 小売業 | 実施割合が 44.4% で、「機械・備品」への投資が一番多くなっています。 |
| サービス業 | 実施割合が 44.4% で、「建物」「機械・備品」「車両運搬具」「その他」が同率で並んでいます。 |

2、来期設備投資

全業種	設備投資を計画している事業所の割合は17.2%（前期調査24.1%）で、「土地」「建物」「機械・備品」「車両運搬具」「OA機器」への投資の割合が同率で並んでいます。
建設業	設備投資を計画している企業はありませんでした。
製造業	設備投資を計画している割合が14.3%で、「機械・備品」の割合が最も高くなっています。
卸売業	設備投資を計画している割合が50.0%となっています。
小売業	設備投資を計画している割合が33.3%で、「土地」「建物」「車両運搬具」の割合が同率となっています。
サービス業	設備投資を計画している企業はありませんでした。

経営上の問題点

全業種	第1位は「需要の停滞、受注減少」で、39.3%でした。第2位は「材料（原材料）等仕入れ価格の上昇」、第3位は「従業員の確保難」でした。
建設業	第1位が「需要の停滞、受注減少」「新規参入業者の増加」「単価の低下・上昇難」「材料（原材料）等の入手難」が同率で、それぞれ25.0%でした。
製造業	第1位は「需要の停滞、受注減少」で、42.9%でした。

卸売業 第1位は「単価の低下・上昇難」「商品（製品）在庫の過剰」が同率でそれぞれ、50.0%でした。

小売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、33.3%でした。

サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、66.7%となっています。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。